# 家庭教育支援事業

**自治体名**

岩手県金ケ崎町

**学校数**

幼稚園4園　保育園3園　小学校　5校　中学校1校

**震災後の地域の状況・仮設住宅数**

当町は、岩手県の内陸に位置しており、津波浸水等の大きな被害はない。（被災地から41 人 23 世帯が流入し、受入。）ただし、県南に位置するため、放射能の影響を心配する声もある。（仮設住宅数　0）

## ＜取組名＞　～家庭教育学級～

**取組概要**

| 実施形態（該当に○） | 自治体単独実施 | 団体等との連携実施 | 大学との連携実施 | （連携している団体等・大学の名称） |
|---|---|---|---|---|
| | ○ | | | |
| **実施主体・場所等** | **コーディネーター数** | **ボランティア延べ人数** | **年間実施日数（回数）** | **活動場所** |
| | | | 16 | 小学校・幼稚園・保育園・子育て支援センター |

**活動内容**

※該当する内容に○

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 学校支援 | 学習支援 | 部活動指導 | 美化・環境整備 | 登下校指導 | 学校行事・その他 |
| | | | | | （　　） |
| 学校と地域の協働学習 | 復興学習 | 防災教育 | 伝統文化・芸能 | 職業体験・キャリア教育 | イベント・行事・その他 |
| | | | | | （　　） |
| 放課後等支援 | 学習支援 | 体験・交流活動 | 遊び・スポーツ | 児童クラブとの連携 | その他 |
| | | | | | （　　） |
| 家庭教育・保護者支援 | 家庭教育講座 | 親子参加行事 | サロン・相談対応 | 家庭訪問相談 | その他 |
| | ○ | ○ | | | （　社会体験教室　） |
| 地域課題に応じた学習・交流 | 高齢者支援・世代間交流 | 心のケア・健康管理 | 生活再建・地域づくり | 地域人材育成 | その他 |
| | | | | | （　　） |

【家庭教育学級　実技・講義「抱っこでハッピー子育て♪ベビーダンス」】

- ダンス（運動）を子どもと一緒にすることにより、「ストレス・運動不足の解消」と「毎日の子育てを楽しく過ごすこと」を目的に行った。
- 子どもたちはママに抱っこ（スキンシップ）をしてもらいながら、ゆるやなか音楽の中で気分が良くなりリラックスした。
- ダンスの前に子どもの健康チェック、手遊び、ストレッチなどを行い、親子の絆を深めた。
- ママは子どもを抱きながら簡単なステップの組み合わせで体を動かし、子どもはゆるやかな音楽と振動、ママとのふれあいを感じる事で気分が落ち着き、お互いストレス解消になった。

【家庭教育学級　講演「東日本大震災から学ぶ」】

- 講師は、自らの被災体験を子どもたちの被災した写真や映像を交えながら話された。参加者は、大人も子供も命の尊さを学んだ。
- 親に向けた講演では、家族や家を失った人たちの生々しい話を聞き、涙を流した人もいた。被災地の人々とどう関わっていけばよいか考える機会となり、家庭でも「忘れない」ために語り合う良いきっかけとなった。

取組の変遷

## 準備段階

◇被災による課題

- 被災地から 41 人 23 世帯が当町へ避難し、受け入れている。（昨年より 19 人 9 世帯が減少）
- 当町では、震災による大きな被害はなかったが、被災地への支援や被災者との交流等により、県全体の復旧復興を目指している。
- 県南部のため、放射能の影響や H20 岩手・宮城内陸地震の経験等、今後さらに防災教育の重要性が増している。防災という視点からも、地域コミュニティの再生に継続的に取り組む必要がある。
- 地域コミュニティの核となる家庭の教育力の更なる向上が必要である。

◇住民等からの要望・必要な取組

- 地域コミュニティを再生するうえでも、家庭の教育力を高める具体的な支援が必要である。
- 乳幼児のいる家庭からは、「子どもと一緒だとなかなか運動ができないから一緒に楽しめる運動をしたい」等の要望がある。

## 体制づくり・取組の実施

◇協力を呼びかけた団体・関係者、役割分担

- 金ケ崎町、金ケ崎町教育委員会 ： 実施主体
- 小学校、幼稚園、保育園 ： 保護者への周知、活動場所の提供
- 子育て支援センター、生涯教育センター ： 地域住民への周知、活動場所の提供

◇取組の充実や課題解決のための工夫

- 住民等からの声を聞き、ニーズの把握に努めている。
- 地域全体に周知するために様々な場を利用し、周知活動を行っている。
- 講義や講演を聞くだけでなく、実技や交流の場も設定し、事業の充実を図っている。

## 成果・課題や今後の展望

◇これまでの取組による成果

- 町内全小学校、全幼稚園等で実施し、町内の多くの保護者に学びの場を提供することができた。
- 子育て支援関係団体、行政、学校、地域等との連携により、家庭教育の充実を図ることができた。
- 親同士で交流する場を設定したことにより、お互いの悩みを話したり、アドバイスを受けたりし、参加者全体で話題を共有し、安心感を得ることができた。

◇課題や今後の展望

- 参加する保護者と参加しない保護者の固定化が見られる。
- 家庭教育学級を実施する場合、子どもの年代に応じたテーマ設定により、それぞれの発達段階に応じた支援がより有効になると思われる。
- 地域や子どもの年代に応じた内容で実施できるように聞きとりとをしっかり行っていく。